

国立国語研究所学術情報リポジトリ

『方言文法全国地図』ができるまで：
調査報告カードから地図までの道のり

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大西, 拓一郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003325

『方言文法全国地図』ができるまで

— 調査報告カードから地図までの道のり —

言語変化研究部第1研究室 大西拓一郎

要旨:

『方言文法全国地図』作成の手順を図などを提示しながら説明します。

キーワード: 方言文法全国地図 作成方法 併用

1. 『方言文法全国地図』とは

『方言文法全国地図』は、方言の文法現象に関する全国地図です。各地の文法現象とは、「～へ行け」と言う場合の「へ」をどのように言うか、「高い」という形容詞の活用が全国でどのようになっているのか、などといったことを指します。全体で6巻300枚の地図を予定しています。1998年12月現在で、第3集まで完成、第4集は印刷中です。

調査は、全国約800地点で1979年から1982年にかけて行われました。調査員(おもに各地の研究者や国語研究所員)が各地点に行き、直接その土地の人に面接して聞き出しています。調査内容は、あらかじめ全国共通で用意した調査票に基づくもので、約300の項目が含まれています。この調査票に沿って、例えば、「土地の人どうして「東の方へ行け」と教える場合にどのように言いますか?」、というように質問して、その方言での言い方を聞き出しています。各地の話者は、調査地点生え抜きで54歳以上(調査時点)の男性を基本としています。

2. 調査とカード

調査結果は、調査の現場では調査票に記載し、それを1項目につき1枚に転写したカードが国語研究所に送付されています。カードの大きさは、縦7.7cm×横13cmです。調査地点は「地点番号システム」という方法により、番号で表されています。

国語研究所に送付されてきたカードは、項目ごとにカードケースの中に分類されます。カードケースはカードボックスに格納します。

また、調査内容の一部はカセットテープに録音し、保管されています。

070 「この着物はたぶん高いだろう」と言うときの「高いだろう」はどうですか。
tagembe
① tagegambe
<tagembe とは言わない>

071 「あそこは、車が通らないのでたぶん静かだろう」と言うときの「静かだろう」はどうですか。

sidzigadambe

— 受身形 —

072 「留守のときに来られると出る」と言うときの「来られる」のところどのように言いますか。

koraeru

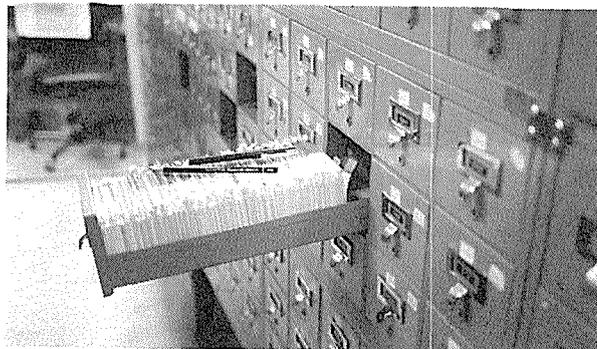
073 「壁に落着をされる」と言うときの「される」はどうですか。
(「サレ」を使った形はない)

saeru
<saeru とは言わない>

記入された調査票

項目番号	標準	地点番号
070	方言文法全国調査 ④	3794.24
保存(注記)		
① tagembe		
② tagegambe (ゆ)		
<tagembe とは言わない.>		

カードの例



カードケースとカードボックス

3. カードの整理

項目ごとに分類されたカードを記載された内容をもとに整理します。

まず、第1段階として、記載された語形について、その語形を地図に載せるか載せないかを決定します。語形の採否については、全体に共通した採用規則と項目ごとに決める採用規則に基づいて行います。このような規則を「語形の採用規則」と呼んでいます。

共通した採用規則というのは、それぞれの語形が用いられている状況などです。基本的に採用条件に合う話者自身が用いている語形のみを採用します。よって、カードに記載されていても話者自身は使わないが、最近の若者が使うのを聞くことがある。>などというように注記が付けられた語形は、この段階ではねられることとなります。このような手順を踏むことにより全国的に一定の条件で用いられる語形がすくいとられることとなります。

次に各項目で決める規則ですが、それぞれの項目でねらいとする分野を中心に決めて行きます。例えば、第2集92図「出した」という項目がありますが、これは「出す」というサ行五段活用の動詞の過去形を見ようとした項目です。したがって、いくら「出した」に似ていても「ポストに入れた」などという語形は採用しないこととなります。もっとも実際には、微妙な語形が多く、文法という抽象的なものを対象にしているだけに、編集にあたってもっとも頭を悩ませる作業過程です。

採用が決まった語形は、一定の規則にしたがってまとめられます。この規則を「語形の統合規則」と呼んでいます。これも地図集全体に共通した規則です。先の「出した」でいえば、「dasita, daʃita, dasita, ダシタ」など、さまざまな語形や表記方法でカードには報告されてきています。これらをそのまますべて地図の上を示しては発音の地図や調査者の聞き取り方、はたまた、表記方法の地図になってしまいかねません。これを整理する手続きが語形の統合規則です。この規則に従って、一定の見出しのもとに語形を整理します。そして、見出しは山カードによって分類します。つまりひとつの見出しの山カードに分類された中に複数の地点のカードが並ぶこととなります。

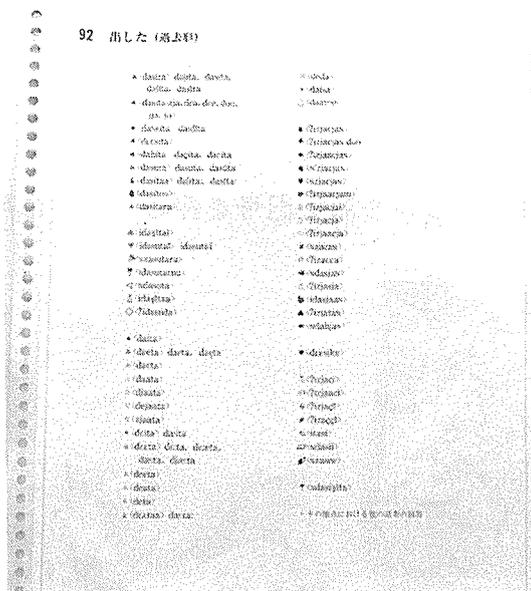


分類されたカードケース

4. 凡例の作成

語形の採否やまとめかたが決まったところで各語形に記号を与えます。ひとつの見出

しに対して、ひとつの記号を与えます。そして、各地図全体に現れる語形とそれらに与えた記号を一覧にしたものが凡例となります。



凡例(印刷が終ったもの)

5. 押印

いよいよ地図の作成に入ります。凡例と分類されたカードをもとにして、各地点にゴム印を使って記号を手作業で押して行きます。各地点は先の地点番号でさがします。地点番号は日本全体を格子状に区切って番号を与えているものです。記号を押す白地図には、その格子と地点番号が印刷されています。なお、白地図の大きさは縦54cm×横74cm(B2版)で、最終的に印刷される地図の縦35cm×横48cm(B3版)より大きいものです。

さて、ゴム印を押すにあたって重要な手順があります。それは、併用回答の地点を先に押すということです。

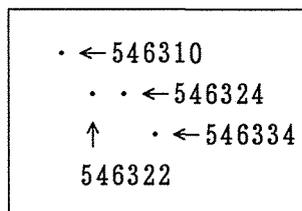
ひとつの項目に対する1地点の回答語形は、ひとつとは限りません。複数の語形を用いることが実際にはあります。それも3つ、4つと回答されることがあります。このようなことを「併用」といいます(反対に1地点1回答のことを「単用」といいます)。併用であっても回答語形が採用規則に適合する以上、すべて採用し、地図上に掲載することが必要です。このような場合、1地点に複数の記号を並べて押すことになります。そうするとどうしても1地点に要する面積が単用の場合より大きくなります。

併用により1地点が食う面積が大きくなるとどうなるか。隣り合う地点との距離が離れている場合は、あまり問題にならないのですが、近い場合は隣の記号を押す場所にはみだしてしまうことになります。

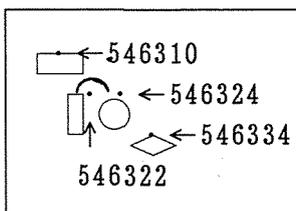
はみだされた地点は、本来押されるべき場所を失ってしまい困ります。『方言文法全国地図』では、このような場合には、位置関係を大きく乱さない範囲で、はみだされた方の地点の本来の場所から、少しずつずらして押します。このようにして、結果的にはどこの回答かわからなくならないようにしているのです。

この方法をとるためには、先に併用回答の地点を押すことが必要になります。先に単用から押した場合、併用地点の場合は押す場所すらなくなってしまうことがあるからです。場所がなければ、先の「ずらし」の技術も使えません。そして併用地点を押す場合も併用の数が多いものから先に押していきます。これは併用の数が多いものほど面積を

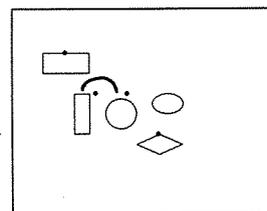
とるからです。



混み合った地点

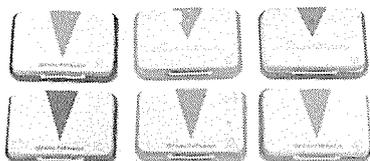
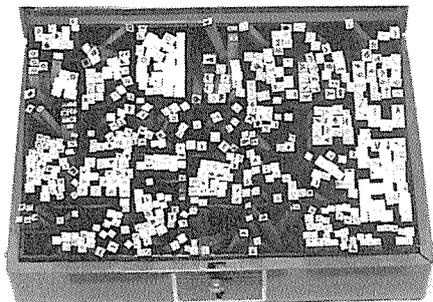


546324が押せない

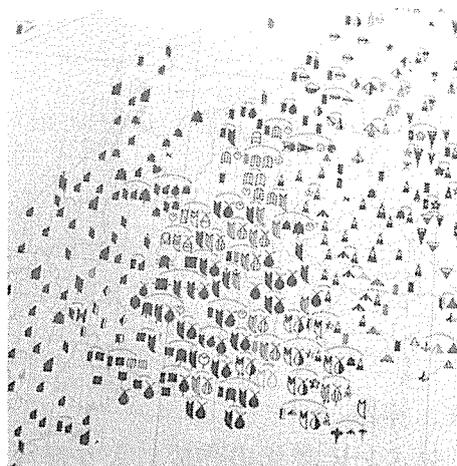


位置関係は大きく乱れない

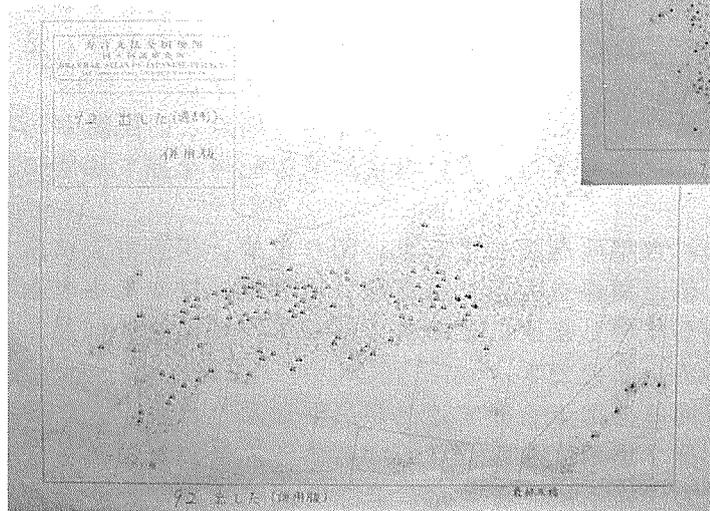
このように併用数の多いものから順に記号を押し、次に単用を押すことにより原稿地図は完成します。



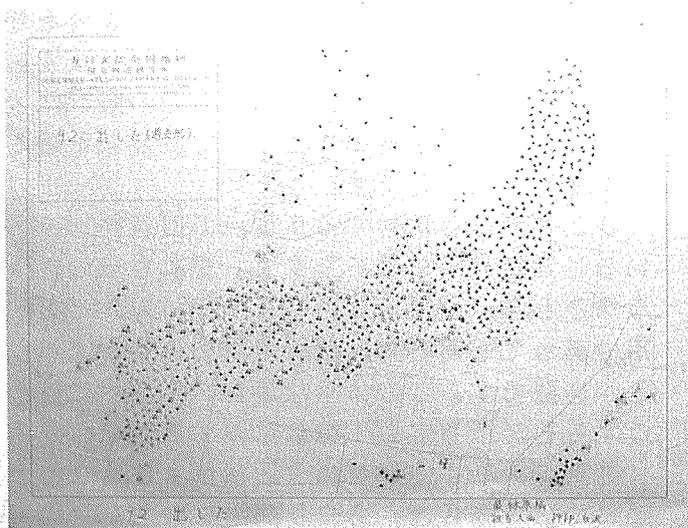
ゴム印と色ごとのスタンプ台



混み合った併用地点



併用だけを押しした地図

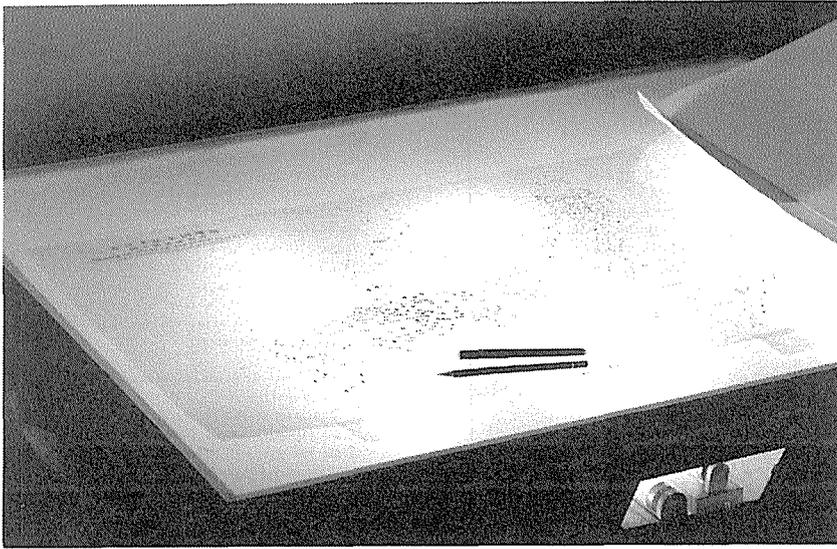


原稿地図

6. フィルム校正

原稿地図がコピーのようにして、そのまま印刷されるわけではありません。印刷所の大蔵省印刷局(お札や切手の印刷をしているところ)に原稿地図を渡し、印刷用のフィルムをあらためて作ってもらいます。このフィルムは、色別に作成されます。『方言文法全国地図』の場合、最大6色用いますので、多い場合は1枚の地図に6枚のフィルムが作られることになります。このフィルムの大きさは、白地図と同じ大きさです。

地図の校正は、国語研究所で行います。印刷用のフィルムが校正用に戻ってきますので、これを投写台に乗せ、原稿地図の上に重ねて、異なりがないかチェックします。



フィルムと投写台

7. 解説書と凡例

解説書と凡例は、国語研究所で作成した原稿を大蔵省印刷局で印刷用に組み直し、校正を繰り返します。手順は通常の印刷物と同じですが、一般の印刷物より外字(おもに音声記号)や記号、図表が多いので、時間と手間は相当にかかります。最近では、ほとんど場合、フロッピーをいっしょに渡しますが、問題の外字や記号などは扱えませんので、この点に関しての効果は期待薄です。

く、単体動詞相当にあたるものと考えられる。ただし、正確にはeの部分が単体動詞相当にあたるものとも考えられる。しかし、先にも述べたとおり、*iについてはそれと後続の子音との間で「部」の分割はしないことになっている。以上のことから、標記の語形においてはtaseeを前部、eを後前部、*daを後前部、baを後後部とした。

*takeesdattara 145615.20の語形である。この地点の仮定形2では動詞においては、[okirandattara] (起きるなら)、[kurandattara] (来るなら)、[jirandattara] (するなら)、[kakandattara] (書くなら)のように回答されている。これらについては動詞の仮定形2 [7.1.語形の採用と統合]で述べられているように連体形に単体動詞根のaxが付いて融合したものである。動詞においてそのような現象が起っている可能性があると考えられる。しかしながら、動詞の語形からもわかるとおり、anの頭のaはすでに用言の活用形式の中のみこまれて、除去化してしまっているようである。そこで、ここでは標記の語形においてはtakeeを前部、Nを後前部、dattaraを後後部とした。

(tageindara 143730.43の語形である。この地点の他の仮定形2でも[okiruindara] (起きるなら)、[kuruindara] (来るなら)、[kakuindara] (書くなら)のように、indaraを用いた形が回答されている。そして、形容詞の連体形は[tage] (136内)である。以上のことから考えると、標記の(tageindara)に見られる「高い」の末尾に相当するものではなく、単体動詞相当の一部と考えるべきものであろう。そこで、標記の語形においては、taseeを前部、inを後前部、

estara (音声表記では[e'tara])が付くことで仮定形2を表現していると考えられる。形容詞の[tageestara]も連体形[tage] (136内)はこの形で回答されている)に[e'tara]がついた上で[e]が単音化して[e]となり、生まれたものと考えられる。このような事情を考えると、標記の語形におけるeiは前部にも後前部にも属させることができることになるが、ここでは、taseeを前部、Nを後前部、taraを後後部とした、(tagee'dara 143649.73と2722.67の語形である。3649.73の他の仮定形2では[ogiru'e'daba] (起きるなら)、[kuriru'e'daba] (来るなら)、[kagu'e'daba] (書くなら)のようにe'dabaを用いて回答されている。形容詞ではe'daraで回答されており、やや虚形に異なはあるが、e'もしくはeの部分に関しては単体動詞相当と考えることができる(報告の表記が[tagee'dara]のように[']を用いないで表記しているのもそれを物語るものと考えられる)。以上のように考えると、この地点に関してはtaseeを前部、eを後前部、*daraを後後部とすべきかと考えられる。さらに、この地点の形容詞の他の活用形を見ても、タゲーのように末尾を伸ばすことはなく、標記の語形の二つ目のeiは「高い」の末尾の連母音に属するものではないと考えられ、この点からもこの分析は妥当と考えられる。ところが、2722.67の他の仮定形2では、[kuriru'dara] (来るなら)のように、3649.73と異なり、e'daraは認められない。同時にこの地点の形容詞の連体形は(tagee) (136内)であり、2722.67ではtaseeを前部、後前部は「なし」、*daraを後後部とすべきことになる。このように、同一の語形が異なる地点で回答され、それぞれの体系が異なるため

すなわち単体動詞相当とすべきかどうかは問題があるとと思われる。注意が必要である。

色の与え方は143図に同じである。繰り返しになるが記しておく以下ようになる。

色の与え方は8.1.2.1.の形容詞全体の原則に従うが、項目ごとに選択が委ねられているものに関しては以下のように決めた。

18Hに該当するものうち、前前部にk-yを含むものには本を与え、含まないものには橙を与えた。

19Hに該当するものには茶を与えた。

00Hに該当するものには水を与えた。

記号の形は、表8-29に従って、後後部で決める。これは143図の後前部による形の与え方にはほぼ平行させている。表でもわかるように、記号の形と後前部はほぼ一対一対応しており、いくつかの後前部と同じ形の記号

を与えている。これらについては、語形全体を記号化する際に記号の他の要素で区別されるものである。

色りつぶし方は、表8-30a・8-30b・8-30cに従って、後後部で色ごとに与える。なお、子細に見ればわかるが、表8-30aと併用して区別したものもある。

方向は、表8-31に従って、前前部で色ごとに与える。補助記号には与え方が2とおりある。いずれも仮に円形記号に与えたいものと想定して示している。補助記号は記号全体の方向が決定された後に表に従って付けるものとする。

補助記号のひとつは、表8-32に従って、後後部で下向きに与えるものである。これは143図の後前部による補助記号の与え方となるべく共通するようにしている。

もうひとつは、表8-33に従って、後前部で下向き以外の7方向に与えるものである。

表8-29

後前部 番号	後前部	記号	後前部 番号	後前部	記号	後前部 番号	後前部	記号	後前部 番号	後前部	記号
1	nara	○	19	dara	○	37	deattara	∩	55	tigaa	☆
2	narjaa	○	30	*dara	○	38	dattara	∩	56	kkara	∩
3	naroo	○	21	darjaa	○	39	zjattara	∩	57	kkaraa	∩
4	naruu	○	22	dareja	○	40	zjaattara	∩	58	kkaa	∩
5	nare	○	23	dare	○	41	jattara	∩	59	kaa	∩
6	nari	○	24	dai	∩	42	jatara	∩	60	ka	∩
7	nari	○	25	dre	∩	43	njattara	∩	61	jujara	∩
8	nada	○	26	da	∩	44	attara	∩	62	tokja	∩
									63	nisika	∩

解説書の例

8. 資料一覧

ここまでの作業はほとんどが手作業です。いかに『方言文法全国地図』の作成に手がかかるか理解されたことでしょうか。地図自体の作成の機械化は現在検討していますが、併用回答の表示の自動化までは難しいようです。

ところで、唯一自動化している部分があります。それは「資料一覧」の作成です。『方言文法全国地図』には、もとのカードに記された語形が、ほぼそのまま生データとして見られるように資料一覧というものを付けています。回答語形を特定の形式でコンピュータ用に入力し、必要なデータを付加して、プリンタで出力したものです。

もっとも、データの入力は当然、人力で行いますし、採否に関する情報の付加などは地図自体の出来上がりによって左右されますので、自動化といってもプリントアウトの部分に限られているものです。

022896	運	029 kak'jungs'u	030 toha:sagmug	031 fjtkanaturo:
否	001 ʔuirag	002 niburag	003 k'uŋ	004 siraŋ
	005 si:raŋ	006 makasaŋ	007 ʔe:raŋ	008 kakaŋ
	009 tarag	010 xarasag	011 xaraŋ	012 paŋ
	013 ʔakaŋ	014 xiraŋ	015 ta:k'unŋ	016 si:zukakunŋ
終	017 ʔuirJuriŋ	018 niburJuriŋ	019 niburJuriŋ	020 ʔak'isa:raJuriŋ
	021 ʔak'isa:raJuriŋ	022 si:rafuŋ	023 makafuŋ	024 kakJuriŋ
	025 kakafuŋ	026 kakafuŋ	027 kakafuŋ	028 kakafuŋ
	029 kak'jungs'u	030 ta:kagmug	031 xsi:zukadja	032 sidzukanadoro
連	033 si:ri	034 ʔe:ri	035 pi:	036 k'u:
	037 xi:	038 xittaauriŋ	039 makasi	040 kakasi
命	041 ʔidja:faŋ	042 kat'faŋ	043 kakat'faŋ	044 nuda:
	045 nudi:	046 tuda:	047 ʔat'fa:	048 ʔat'fa:
過	049 makat'fa	050 makat'fa	051 makat'fa	052 karat'fa
	053 karat'fa	054 karat'fa	055 karat'fa	056 karat'fa
	057 ta:kata	058 ta:kata	059 ta:kata	060 ta:kata
て	061 ta:kata	062 ta:kata	063 ta:kata	064 ta:kata
なる	065 ta:kata	066 ta:kata	067 ta:kata	068 ta:kata
意	069 ta:kata	070 ta:kata	071 ta:kata	072 ta:kata
推	073 ta:kata	074 ta:kata	075 ta:kata	076 ta:kata
受	077 ta:kata	078 ta:kata	079 ta:kata	080 ta:kata
便	081 ta:kata	082 ta:kata	083 ta:kata	084 ta:kata
仮1	085 ta:kata	086 ta:kata	087 ta:kata	088 ta:kata
仮2	089 ta:kata	090 ta:kata	091 ta:kata	092 ta:kata
024688	運	029 kak'jungs'u	030 toha:sagmug	031 fjtkanaturo:
否	001 ʔu:ri	002 si:ri	003 si:ri	004 ʔi:h:ri
	005 mi:ri	006 ko:	007 ki:ri	008 makasi
	009 kakasi	010 kakasi	011 kakasi	012 kakasi
終	013 ʔidja:faŋ	014 kat'faŋ	015 kakat'faŋ	016 nuda:
	017 nudi:	018 tuda:	019 ʔat'fa:	020 ʔat'fa:
	021 makat'fa	022 makat'fa	023 makat'fa	024 karat'fa
	025 karat'fa	026 karat'fa	027 karat'fa	028 karat'fa
	029 kak'jungs'u	030 ta:kagmug	031 xsi:zukadja	032 sidzukanadoro
連	033 si:ri	034 ʔe:ri	035 pi:	036 k'u:
	037 xi:	038 xittaauriŋ	039 makasi	040 kakasi
命	041 ʔidja:faŋ	042 kat'faŋ	043 kakat'faŋ	044 nuda:
	045 nudi:	046 tuda:	047 ʔat'fa:	048 ʔat'fa:
過	049 makat'fa	050 makat'fa	051 makat'fa	052 karat'fa
	053 karat'fa	054 karat'fa	055 karat'fa	056 karat'fa
	057 ta:kata	058 ta:kata	059 ta:kata	060 ta:kata
て	061 ta:kata	062 ta:kata	063 ta:kata	064 ta:kata
なる	065 ta:kata	066 ta:kata	067 ta:kata	068 ta:kata
意	069 ta:kata	070 ta:kata	071 ta:kata	072 ta:kata
推	073 ta:kata	074 ta:kata	075 ta:kata	076 ta:kata
受	077 ta:kata	078 ta:kata	079 ta:kata	080 ta:kata
便	081 ta:kata	082 ta:kata	083 ta:kata	084 ta:kata
仮1	085 ta:kata	086 ta:kata	087 ta:kata	088 ta:kata
仮2	089 ta:kata	090 ta:kata	091 ta:kata	092 ta:kata
024731	運	029 kak'jungs'u	030 toha:sagmug	031 fjtkanaturo:
否	001 ʔi:raŋ	002 nibu:raŋ	003 koŋ	004 siraŋ
	005 makasaŋ	006 ʔakiraŋ	007 kakaŋ	008 tarag
	009 xarasag	010 karaŋ	011 miŋag	012 ʔak'isamaraŋ
	013 ʔakaŋ	014 ta:sajaneŋ	015 ta:kuneŋ	016 tudinnasaneneŋ
終	017 tudinnasaneneŋ	018 tudinnasaneneŋ	019 tudinnasaneneŋ	020 tudinnasaneneŋ
	021 ʔak'isamaraŋ	022 kak'isamaraŋ	023 kak'isamaraŋ	024 kak'isamaraŋ
	025 kak'isamaraŋ	026 kak'isamaraŋ	027 kak'isamaraŋ	028 kak'isamaraŋ
	029 kak'jungs'u	030 ta:sammug	031 ta:kamug	032 tudinnasaguro:
連	033 ʔi:ri	034 ʔe:ri	035 mi:	036 xmit'fipnŋ
命	037 ko:	038 xkonna	039 xkonna	040 xkonna

資料一覧の例